編集発行／
社会福祉法人
琴平町社会福祉協議会
仲多度郡琴平町榎井891－1
TEL　0877-75-1371
E-mail　info@k-wel.or.jp
HP　http://www.k-wel.or.jp

福祉 ことひら

2024
3
事務局通信
シャントセナ
合併号
第115号

2 3 4 5 6 7 8 9 …【総括】琴平社協の活動を振り返り、これからを考える
10 … シャントセナ
11 … 善意の寄付・野菜寄付お礼
切手等収集ボランティア
共同募金報告
12 … 社協職員地区担当変更の写真紹介

懇談者と理事・監事・評議員

令和6年1月16日 開催

～ 琴平社協法人化40周年記念懇談 ～

今月の特集

【総括】琴平社協の活動を振り返り、これからを考える

【総括】琴平社協の活動を振り返り、これからを考える

11月発行の「福祉ことひら114号」では、2000年（平成12年）頃から現在までの活動について、サロン活動を通してのつながりづくりや地域づくり、専門職と社協との関りについて、当時関わりのあった方々と振り返りました。

今回は、琴平町社会福祉協議会（以下、琴平社協）顧問である大橋謙策先生にもお越しいただき、琴平社協のこれからについて懇談していただきました。

琴平町社会福祉協議会
顧問　大橋 謙策 氏

新原▼ 今回は最終回ということで、琴平社協の顧問であります大橋謙策先生、片岡町長、理事でもある元婦人会会長為広さん、自治会連合会会長牧山さんに琴平の未来を語っていただきたいと考えています。

社協活動の発展のきっかけ

新原▼ 琴平社協の転機となったのは『ボランタピア事業』と『ふれあいのまちづくり事業』と考えます。この『ボランタピア事業』から大橋先生に携わっていただくようになりました。その頃あたりから大橋先生にお話しいただければと考えます。

大橋▼ 1986年（昭和61年）に『ボランタピア事業』から指定を受け、これが契機で、琴平町に最初に伺いました。1,000人ほど参加した体育館に、クーラーもなく通路に氷柱を置いていました。当時の人口12,000人のところ1,000人集める熱量はすごいなと思いました。特に大事なところで婦人会が力を発揮してくれたなと感じました。1996年（平成8年）国の事業『ふれあいのまちづくり事業』の指定を受け、1997年（平成9年）『第1回こんぴら地域福祉セミナー』を琴参閣で開催し、私の記憶では600人が参加した熱気あるセミナーとなりました。そこから本格的に社協の活動の発展が始まったような印象があります。

↑会場に置かれた氷柱　琴小体育館にて

第１回シンポジスト

琴参閣で600人

為広▼ 先生のご記憶のとおり琴参閣に600人の参加者があり、先生は、その頃の元気な町に「必ず高齢化の波が来る」と言われるので、「嘘でしょ」と思っていましたが、今はそれよりも前に進んでいると思います。

大橋▼ この第1回目セミナーに、島根県瑞穂町（現在は合併して邑南町）の社協事務局長の日高政恵さんともう一人、『うんだなーヘルパー奮戦記』の著者である岩手県湯田町のヘルパー菊池多美子さんにも来てもらいました。この方は、「ただ行ってこいヘルパーじゃだめだ、必ず家庭訪問したらニーズキャッチをしてくる。そしてニーズに応えるサービスを開発する」と方言丸出しで話され、会場は沸き返りました。

琴平社協理事
自治会連合会会長　牧山 正三 氏

食事サービスをボランティアの協力で

新原▼ 琴平社協は食事サービスに力を入れてきましたが、その時に婦人会の力がなければ成り立たなかったと思います。現在でもお力添えをいただいております。

為広▼ 当時は、老人ホームから食事が提供されていました。総合センターの和室で10～20人の高齢者が食事をしていました。今でも忘れられないのが、現在の琴平社協会長のお母様長谷川会長から「娘が社協でお弁当を提供するようになったので手伝って」と依頼されたのがきっかけです。それから30年が過ぎ、自分が今度はもらう立場になって、生きていくのに一番大事なのが食事サービスであるとの認識になりました。ボランティアというのは、一朝一夕にはできないことだなと強く感じています。

琴平社協理事
琴平婦人会元会長　為広 幸子 氏

大橋▼ 琴平社協の特色は、ヘルパーさんが自転車で町内をぐるぐる回ってニーズキャッチのアンテナとしての役割を担っていて、地域の実情を一番把握していたことです。この役割は高く評価しなければならないと考えます。琴平は観光地であって、ホテルや旅館もあって一人暮らしの方が生涯最後の就業先として仕事に来ます。その一人暮らしの方の老後の食事の問題がいかに深刻であったかということ。ちょうど全国的に高齢者の食事について問題提起をされたのが1979年（昭和54年）で、宅配をするようになったのが1993年（平成5年）ということで、宅配をすることで家庭内に入りニーズキャッチできるということです。一般的に自治会や婦人会が地域のことを一番よく知っていますが、社協自体もヘルパーと弁当の配達で家庭の中に入ることができるということは全国的に見ても強みだったと思います。瑞穂町の日高さんも高齢者の食事会をしていましたが、高齢者一人で食べるのは寂しいとの思いから、一人暮らし高齢者に向けた合宿を行っていました。遠く離れた子どもたちを頼るのではなく、合宿する仲間がお互いに助け合い、そこにヘルパーを派遣するという取り組みをしていました。

新原▼ 現在も続く配食サービスは、婦人会による調理ボランティアや地域住民からの野菜などの食材寄付に支えられて継続することができています。

大橋▼ 今でも婦人会が調理をしているんですか。

為広▼ 今日も当番でした。

大橋▼ 何人くらい参加されますか。

新原▼ 火・水・木曜日の週3日で、一日当たり2～3人の参加があります。

大橋▼ 何食くらい作ってるんですか。

為広▼ 今日は60食ですが、常には80食くらいです。100食を超えることもありましたが、コロナ蔓延になって少なくなったのかな。80食くらいは常に作っています。この経験から先日の出初式でのうどん接待に役立っていると思います。たくさん作ることに慣れているということです。

地域福祉懇談会を継続して

新原▼ 食事サービスから職員が家の中に入っていくことで、何らかのサービスにつながっていくこともありますし、何より毎年の地域福祉懇談会（以下、懇談会）に民生委員や福祉委員、自治会長も参加していただき、一年を振り返って実践内容や課題などを情報共有しています。

牧山▼ 私も地元である金沢町上組の懇談会に参加していましたが、琴平・五條・榎井・象郷の4つの地区を意識するようになりました。琴平は観光の地区であり、生まれ育った馴染みがありますが、象郷

地区は『農業が盛ん』とか『家が広い』というイメージしかありませんでした。地区の雰囲気がわからないと社協の新原さんに相談すると、象郷地区の懇談会への参加を勧められ、参加することで雰囲気が理解できました。住宅地図よりも社協の新原さんや地区担当の方がいろいろなことを把握できていると思っています。直接住民と話すということが一番大切だと考えます。この顔の見える関係が、防災においても例えば避難所を開設する時にみんなが顔見知りで挨拶ができる程度に住民同士がつながっていると良いのではないかと考えます。自治会としても相互扶助を常に心がけています。

大橋▼ 琴平社協では、1992年（平成4年）に福祉委員の制度を作っています。それまでも民生委員の制度があり、自治会活動も活発でしたが、それぞれが縦割りでつながっていなかったとの印象でした。それが1996年（平成8年）『ふれあいのまちづくり事業』でつながりました。4つの地区では特徴が違うなど、懇談会で丁寧に行ってきた結果、琴平町は成功しました。ここまでつながっている地域はないんじゃないですか。

牧山▼ 婦人会で為広さんたちが行っている『ひな寿司』、これは良い実践です。瑞穂町のようにみんなで食事をするわけではないですが、独居の高齢者が多く寂しいところへ、みんなに公平にひな寿司が届けられる。寿司を作るのは一日だけのことですが、準備段階で目に見えない様々なことを調べています。

ひな寿司

大橋▼ 福祉というと、点と点をつなぐ個別支援になってしまいます。気を付けないと個別支援そのものが福祉だと誤解してしまいます。地域で暮らすことが目的で、地域という面で支えないといけません。自治会と民生委員と福祉委員が地域でつながり、そこに婦人会が寄り添っている、こういう地域を基盤とした取り組みが全国的に評価されたのだと考えます。

琴平社協は、「まるっと安心サービス」という入院・退院支援をはじめ、死後対応まで行うことをしています。これは、全国の各地でこの必要性があり、琴平社協が先駆けて行っています。家族がいても放っておいてほしい、親族がいても関わらない。こういった事例が全国各地で起こっており、行政が頭を悩ませています。

今、厚生労働省が地域共生社会と言っているのは、「個別支援を通じて地域づくり」と言っています。まさに琴平はこれを行っています。個別支援は大事だけれども、点と点で広がりません。これを「地域で支えてくれる」これは大事なことで、懇談会はきっかけであったのではないでしょうか。私が全国的に一番最初に大々的にやったのは、岩手県遠野市です。人口2万1,000人の時に、68か所で住民座談会をやりました。正月3日の午後に市役所の係長がやったんです。こういった積み重ねが個別支援を通じて地域が変わっていくことになります。

新原▼ 自治会というキーワードですが、当時は自治会組織率70％ぐらいでしたが現在50％を切るくらいの状況になっています。これからの地域福祉を考えた時に、自治会は重要な位置でありますが組織率が50％になって、これから社協としてどうしていくべきか考える必要があります。

地域福祉懇談会

大橋▼ 行政も社協も自治会に丸投げみたいなことをするんです。丸投げされた住民は、ボランティアでやっているので、負担感だけが出てしまいます。そこを行政職員や社協職員が少し援助していけば負担感は減ります。去年の10月に沖縄県那覇市に呼ばれて行きましたが、なんと自治会加入率は14.8％、それなのに厚生労働省の重層的支援体制整備事業を受けます。重層的支援なんて、自治会の力がなかったらできません。行政も社協も一緒になって実践するとの発想がないといけません。琴平町は約50％とのことですが、社協も行政も考えていかなければならないのは、住民に寄り添って住民の負担にならないような支援の仕方をしないとだめです。また、地域の人々が高齢になっているので、勉強する機会があって新しい知識や技術を身に着けている人が一緒になって実践するという発想が必要です。町長にお願いしたいのは、各地区担当の職員を置いていただきたい。

琴平町長
片岡 英樹 氏

社協も同じで地区担当を置く、その間に「住民と一緒にやりましょう」と言わないと、高齢化率が50％の時に今までの感覚で行政は金だけ出せばいいやという話にはならないと思います。

片岡▼ この自治会の問題というのは、昔は葬式を出すためには、自治会に入っていないと出せないというのが一つの縛りとしてありましたが、町内でも葬祭会館ができて、大きく転換があったというのが、みなさん認識している通りだと思います。その後、講中といって、神社組織やお寺組織というのと自治会で別だったのが、いつの間にか一緒になったところもあり、自治会をどう考えるかということで3回関係者が集まり話し合いをしました。問題点はあぶり出されるけれども、出てくるのは、自治会は何のためにあるのかということと、お金の問題。こちらが一番大きくて、解散してしまうといろんな問題が噴出するだろうし、ではそれに代わるものは？というところで止まってしまっているのが現状です。

大橋▼ 去年7月にさぬき市で四国地域福祉実践セミナーをやりましたが、その時に徳島県上勝町の町長が来ました。その時にすごいなと思ったのが、町の広報を職員がみんな1軒1軒に配って歩いたんです。配ることによって、ニーズキャッチできる。それがすごく大事なことなのだと思います。山形県鶴岡市で、合併前には人口10万人で、ここで住民座談会をやりました。地域福祉計画を作る時に、業者に任せるのではなくて自分たちの手作りでやろうと、133か所で住民座談会をやりました。参加した住民は2,300人。その参加した住民一人ひとりにどういう困りごとがあるかをカードに書いてもらって、カードは5,300枚集まりました。農村地域ですから、農閑期の11月の初めから3月半ばまで、雪が降ったり氷雨の降る中で夜やったりするわけです、そこに行政職員も社協の職員も民生委員もみんな協力して参加してくれました。だから住民座談会みたいなのを地区ごとにやって、職員も担当だけではなくて、「職員は必ず出なさい」くらいのことをやったらいいんじゃないですか。

片岡▼ 地区が4つあるので、そこに地区担当がいいのか例えば福祉担当、いろんな担当者が各課から少なくとも出ていくとか、何らかの形でまずは話を聞くというところから始めたらというわけですね。

大橋▼ そうです。イギリスのロンドンにイズリントン区というのがあります。サッカーのアーセナルの拠点のところですけれども、そこは人口が16万人の時に、24地区に分けて、地区ごとに直接民主主義的なことをやりました。私も何回か出ましたが、そこは3か月に1回、集会をやって、職員も来る、住民も来る、「今アーセナルの球場の工事やってダンプが危ない」とか「あそこに信号つけろ」とか、そんな話をみんなでやって、別に行政が答弁するわけではないんです、警察官も地域に関わっている人がみんな集まって、この問題はどうだって話をするということです。鶴岡の時もそうで、「これは行政に言ったって無理だから地域の住民がやるよ」「これは住民でできないから行政がやってよ」「これは行政と住民が協働しないとできない」と出てきたカードをきちんと3つに分類します。社協は懇談会をやっているけど、もう少し行政や自治会とタイアップしてみる必要があります。問題発見問題解決型共同学習、だから問題があったらすぐ行政が何かやれよというやり方ではだめで、一緒にどうする、ということを話し合うこと自体が大切です。結論を出さなくてもいいんです。今、学校教育は結論出しませんから、いろんな見方があるよと言って、あれと同じようなことをやらないとだめなのではないでしょうか。

片岡▼ 今月は町長への手紙といって、全世帯の方から私に直接、提言などを持ってきて頂くのがあります。それは個人、点と点ですけれど、こうやって集まって話していく中で、学びがあるし新たな情報を得るし、それをヒントに、これはできる、これはもうちょっと待とうかとか我慢しようかとか、お互いに知恵を出し合える場になっていくというのは確かにその通りです。

大橋▼ 地区ごとに象郷の楽集館みたいなのがあるといいです。そこに集まって、必要なら終わってからみんなで食事を作って食べればいいし、お酒を飲んだっていいんだから。そういう自由なところを少し考えてみる必要があるのではないでしょうか。新潟県十日町市の公民館は、お酒のお燗器というのが置いてあります。雪の豪雪地帯ですから、お酒を飲みながらやっ

理事、監事、評議員を囲んで懇談

ています。そういうのを社協でやってもいいんです。北海道鷹栖町社会福祉協議会では、社協が送迎用のバスを出して、それでみんな集めて飲んでもらってまた送迎用のバスで送り届ける。ジビエの料理が出ました。琴平でやってもいいのではないでしょうか。そういう楽しいことをやらない限り人は集まらないし、元気は出ないです。

為広▼ 今年もひな寿司を3日間に渡ってお配りするんですけど、安否の確認と、そこで見つけた課題を社協に情報提供します。地域の両隣さんが、「何しよんな?」「今日何食べたんな?」と声かけするためにも私たちは訪問しています。初日は警察官と一緒に同行してもらっています。そこで、振り込め詐欺に遭わないための話とか交通安全の話をしてもらいます。それで私たちもお礼にお寿司をお渡します。地域の人にお寿司とグッズを渡しているところを写真に撮ってもらって、琴平署からも琴平のふれあい事業を発信してもらっています。

大橋▼ 茨城県警は警察官が全戸の家庭訪問をすることになっています。昔はどこでもやっていました。それがいつの間にか家庭訪問がなくなりました。今は悪徳業者が家庭訪問をして、心を許されていろんな問題を起こしているわけだから、もっと行政も社協も警察も家庭訪問だけではなくて、家の中に入ることが大事です。

為広▼ 大きな一つの壁は個人情報です。家に入ることも個人情報保護にはだめやないかとかそんな壁を作るといざとなった時に困るかなと思います。

大橋▼ 民生委員が個人情報を守るのは当たり前で、個人情報を知らない限り、支援なんかできません。例えば緊急対応の問題にしても、災害の問題にしても、知らなくてはいけないです。だからあなたの情報はどこの範囲まで知っているよというのは確認したらいいと思います。

為広▼ 防災の避難のことも、これは山の方は大変やなと思います。避難するのに金毘羅さんの大門くらいのところまで行くんです。その時に高齢になっているから、みんな足がない、息子は跡ついでない、そんなのがもう何年も続いています。一人暮らしが多いです。

大橋▼ それ、琴平の地図の上にマッピングしてみたらどうですか?

為広▼ やったことがあります。

大橋▼ そうでもしないと行政の人も町長さんもわからないと思います。数を言ってもだめなんです。実際の地図の上で、そこに誰か行っているのか、他人と何回くらい話ができるのか、そういうことをやる必要があります。

大橋▼ この間、長野県王滝村という人口660人のところに呼ばれて話をしました。山のすごいところにヘルパーさんが行かなくてはいけないわけです。そんなの介護保険では採算取れないです。だから地図の上にわかりやすくマッピングしてもらって、可視化してわかるようにしないといけないです。それは一人暮らしの高齢者で何らかの見守りが必要な人や婦人会や自治会で一緒になってやってみたらどうですか?

為広▼ 社協の人を上手く使うというか、ここまでやってくれと、じゃあ町の方も援助するからという風に社協に対する温かい手を差し伸べなかったら福祉は成り立っていかないと思います。

大橋▼ 行政はどうしても制度に当てはまるかどうかの判断になります。そういう意味では、今度、社協が重層的支援体制整備事業を受けるわけだけれども、あれはやはり自治会とか婦人会とか民生委員だとかそういう人と一緒にならない限りできないので、その活動を支援するために行政が補助金を出すのは当たり前の話だと思います。行政は、住民が言ってきたことにはきちんと対応します、要するに言ってこない人のことはわからないです。だからそこを厚生労働省がアウトリーチして御用聞きしてくださいよと言っているわけで、そういう意味で、自治会とか福祉委員とか婦人会とか、そこと一緒になって社協がアウトリーチしないといけないんです。

為広▼ 町と社協と住民がタッグを組んでいかなかったら進んでいかないと私はいつもいつも思っています。

福祉はまちづくり

新原▼ここからは、これから地域共生社会ということで、琴平町としてどんな地域になっていきたいのか？どうしていかなければいけないのか、未来をみなさんで語って頂きたいと思っています。

牧山▼昭和40年ぐらいから後半にかけて、金毘羅23軒の旅館街が、いつも満杯で、内町、神明町なんかも、1時2時になっても旅館の観光客がドテラを着てウロウロして、飲み屋という飲み屋はもう本当によく流行っていました。今の現状を見たら本当に衰退の一路なんです。人口がここまで落ち込むとは、予想もしなかったです。片岡町長も大変だと思うんですけど、明るいニュースが必要です。金毘羅大芝居に懸けるのもわかるんですけど、クリーン作戦とか、金倉川のごみを除けるとか、そういうことできれいな町、クリーンな町琴平でお客さんを引っ張ってきて、いいサービスをして、またそれを後につなぐというか、明るいニュースが今一番欲しいと思います。

大橋▼1990年（平成2年）の時に適正人口という言葉を使いました。人口が減ったらまずいの？という、琴平の住みやすい適正人口ってどのぐらい？増えなきゃいけないという発想は、どこか高度経済成長の名残みたいなのを我々は引きずってしまっていて、人口構成は変わるけどそこにいる人たちが相互に助け合うような状況をつくればいいと思います。だから「障がい者のための、高齢者のための福祉のまちづくり」ではなくて、「福祉はまちづくり」だと。島根県津和野もそうです、錦鯉がいるきれいな町です。そういう風に金毘羅さんだけではなくて、プラス何か、きれいな町だよね、あそこは高齢化率も高いけどみんながんばってるねって。だから上勝町がそうなんです、あそこはごみの分別、45分別やっていて、国連のダボス会議にも呼ばれるわけです。そんなことを考えると、琴平はもっとポテンシャルの高い何か力を持ってるんじゃないかと思います。従来の高度経済成長的なあるいは戦前の富国強兵的な感覚で、大きくなくてはだめだという発想はやめて、「福祉はまちづくり」で、障がいを持った人も一人暮らしの家庭も住みやすいまちづくりを徹底的にやったら、人が来るんじゃないですか。島根県邑南町はひとり親家庭を誘致しているので広島の方からたくさん来るんです。そういう風にして住みやすいところだっていう風にやればいいし、高齢化が進んでも農福連携をしたらいいです。障がいを持った人がガァリック娘じゃないけどいろんな可能性があるわけで、要は今いる8,000人ぐらいの人がみんな役割を持って意識して地域を良くしたいっていう風な「選択的土着民」、「琴平に生まれたからじゃなく琴平が好きだから、住み続けたいからやっぱり良くしようよ」という住民を増やさない限りだめなんじゃないでしょうか。

片岡▼適正人口というと、人口8,000人ですけど、1万2,000人と大変多かった頃を基準にすると寂しいんですが、人口密度で言うと、香川県で3番目です。狭い町だけど県内で3番目の密集地ということと、事実人口が減ることは否めないので、現実を見た上で、いわゆる持続可能なまちづくりということでいうと、町がきれいとかお歳を召されても安心して暮らせるとか。配食サービスは小さい町やからできます。小さいからこそ狭いからこそできるということをマイナスではなくプラスとして考えていく。人口が少しずつ減っていくんですけど、住んでいる人が住みやすいというキーワードで接していかないと。もう一つデータでいうと、一人当たりのごみの量を人口で割ると一番多いのは直島町、2番が小豆島町、3番が琴平町。この3つは観光地。直島町も小豆島町も琴平町も町は小さいけれど外から来る人が多いから、当然そこに経済が生まれてごみが多い。ごみのない町というのは、これはもう夢物語だけれど、ごみが落ちてない町、これはできると思います。先程クリーン作戦とかありましたが、民間の方で、ちょっと今日は天気がいいからごみ拾いに行こうというごみ拾い隊とか。それがまたパトロールになるし防犯にもなります。

大橋▼やってないの？

片岡▼琴平町にはパトロール隊が無いんです。そこを町としてもそういう応援をしていきたい。ボラ

ンティアに有償無償ありますけど、やはり喜んでくれる人がいる、やりがいがある、自分がこの地域の役に立っているという何かがあるからやっていると。シニアになっても必要とされている、または役に立っているという思いがこういう元気な方々の原動力であるという基本を忘れてはいけないし、そこを支援していくのは町の仕事やと思います。

大橋▼ 住民の意識を変えなくちゃだめですよ。ごみ拾いなんて地域ではたくさんやっています。みんな隣近所で声かけ合って、来ちゃいけないなんて制約はなくて、お喋りをぺちゃくちゃしながらきれいにしています。いっそのこと派手な格好でやって、名称『こんぴらをきれいにする会』とかにして、ごみ箱を整備したらいいじゃないですか。

牧山▼ ごみを集めに行って、法被を着てクリーン作戦をするとか。

大橋▼ お年寄りや老人クラブに呼びかけて、一緒に町に出ましょう、それはフレイル予防ですと。縦割りになっているからいけないんで、横につなぐといろんな発想があります。

片岡▼ 町がそういう登録をして、Tシャツでなくても腕章とかをして、きちんと認めている人ですよとすることによって、また使命感に燃えてもらえると。

大橋▼ こういうユニフォーム（社協の黄色の蛍光ジャンパーをさして）は色が目立っていいね。高齢者でも明るくてきれいです。着るだけでわかるものにしないと。

社協職員ユニフォーム

為広▼ 私もこの間、夏にセミナーに行かせていただいて、さぬき市の市長の熱意にすごいなと、この町に住んでみたいなって。上勝町も聞かせていただいて感動しました。琴平も他所から見たら春夏秋冬、歌舞伎も大祭もあるし、人口は少なくてもすごくすばらしい町やなと言われるんです。町民自身の顔が見える分、みんなが話もしやすいし、町の魅力は文化にもあるかなと思います。琴平独自の何か魅力的なものを発信するのも一つかなと思います。先日、牧山さんも一緒に榎井地区を何時間かかけて回ったんです。寺町で魅力ある町だったんです。榎井へ観光地を持っていって町の中を歩いてもらう。善光寺がお寺から離れたところに駐車場をもってきてみんなが町の中を歩いています。みんなが新町を歩いてもらうのが将来の魅力の中の一つになるのではと思います。

大橋▼ 琴平の魅力を発見するウォーキングみたいな企画はないのですか。

新原▼ 地区ネットで象郷地区が今年度、何か新しいことをやっていこうと下櫛梨の如意山を地元の人でも知らないというので、展望台まで子どもたちやその家族、地域の人が一緒にウォーキングするという企画がありました。

大橋▼ 先ほどの話で、『町民一人いちボランティア活動』という企画を社協がやって、花をあちこちに置くとかごみ拾いをするとか、社協がボランティアのイメージをうんと膨らませてくれると、これだったらやれるよというのがあるんじゃないでしょうか。

為広▼ 先ほどの掃除の話ですけれど、町を挙げて何かネーミングをつけて、歌舞伎通りみたいな感じで宣伝していく。通った人が、「あぁここはそうなんだ」と。町の中でごみを出さない何かを作ればごみが減るかもしれないですよね。

大橋▼ 逆に言えば『ごみなし通り』を作るとか。そこにごみ箱を置いて、頻繁にユニフォーム着た人がきれいにしているとか、そうすると変わってくるかもしれないです。

為広▼ メディアを使った発信をたくさんしていけるといいです。俳句の募集でも歌舞伎がある時に大々的に表彰してあげるとかそんなのもいいかなと思います。

大橋▼ ふるさと納税の返礼品で何か考えるとか。一泊は旅館やホテルに泊まれるとか。

今、知恵の出し比べの時代です。宮崎県綾町というのがふるさと納税でずっと一番を取っています。町を挙げての有機栽培で、米から野菜から徹底してやっている。そうすると、アレルギーを抱えている子どもの親たちは遠くても買いに来る。特色をどう出すかです。

為広▼ 金毘羅さんがあるから森林ウォークもいいし、土器川の側でレンゲマラソンみたいなのもいいかなと。ネーミングをちょっと書いてメディアが捉えてくれるようなのをしたらいいかなと思います。

大橋▼ 先ほど、みんなが住んでよかったと思える地域共生社会とあったけれど、社協がそういう音頭取りをして、それを行政が支援

するようなことをやらないといけない時代が来ています。

為広▼ 今でも、高齢者が高齢者を支えている。でも支えているんじゃなくて私は支えられていると思うんです。何かをやらなきゃいけないからこそ、元気が出ます。

大橋▼ そうですね、認知症にならないように支えてもらっているんです。だからいろんな人に役割を担ってもらうことが大事です。今の地域共生社会というのは一人一人に役割を担ってもらって下さいと言っているんです。『一人いちボランティア活動』という役割を作って、レンゲ畑を管理する人とか本当にいいと思います。

為広▼ 高齢化になると、昼はわが家へ帰ってもらう、夜は楽集館みたいなところで寝るような時代が来るかもしれません。夜はみんなと一緒に寝て昼はわが家へ行ってお仕事するとか。

大橋▼ 重層的支援体制整備事業はある意味で最後のチャンスで、それは単に福祉の問題ではなくて『福祉はまちづくり』だから。町を挙げてアイデアを出して、8,000人の住民一人ひとりが役割を担える、「一人いちボランティア活動を通じて選択的土着民をどう作るか」これが合言葉です。それを施設経営している法人はできないから社協がやる。その為には、行政が補助金を出すしかない。補助金を出してあげるという発想ではなくて、逆に行政はやってもらわないと困るという時代が来ている。その意識は行政職員、議員さんも含めて変えてもらわなくてはいけないです。重層的支援体制整備事業では、行政との連携協働は必要不可欠です。琴平社協では、住民福祉課と2か月に1回実務者会議を開き、住民福祉課の主幹や主任が参加し、情報共有をしています。これはとても大切なことで、重層的支援体制整備事業には欠かせないものと思っています。

片岡▼ 40周年ということで、もしも社協がなかったら、配食サービスであったり福祉サービスであったり、我々が当たり前のように感じていたものが、社協がなかったらこの町はどうなっているのかなと思います。もう一度原点に戻ることと、住民、社協、行政、他にもいろんな組織も含めて、今ある課題と問題点をお互いに助け合うことになるかなと、改めてみなさんの心の歴史とか今の現状を聞いて強く感じました。

全世帯を家庭訪問

大橋▼ 社協の職員が全部手分けして地区担当制にして、一人ひとりが世帯に「40周年記念で改めてこの地域はどうあったらいいのかと御用聞きに来ました」という取り組みをやりませんか？せっかくだから40周年記念事業としてその社協の黄色いユニフォームを着て全世帯歩いたらどうですか？昔は保健師さんが家庭訪問した、学校の先生もお巡りさんも家庭訪問していた。今は、家庭訪問する人がいなくなりました。家庭に入れば玄関を開けて匂いだけで、その家の状況はある程度わかります。散らかっているかどうかもわかるんです。家庭訪問はすごく大事です。訪問した時に特殊詐欺の人が来たと思われては困るから、そういう派手なユニフォームを着て、事前に40周年記念事業で各家庭を回らせて頂きます、御用聞きに伺いますと。ひたすら足で稼がないとだめなんじゃないでしょうか。その時に自治会長や民生委員や婦人会の人たちに同行してもらうともっといい。そこに行政がいたらもっといいということです。今は住民と行政が協働する時代です。社協はその間を取り持つ役割。行政と住民は車の両輪、では車軸は何かというと、社協と自治会と民生委員となるんじゃないでしょうか。

新原▼ 40周年ということで、来年度から41年目を迎えるということですけれど、いい懇談ができたと思っています。これから琴平社協としても、目指すべき方向性というものをみなさんがお示し頂いたと思っています。本日はありがとうございました。

懇談を終えて

琴平町社会福祉協議会 会長
越智　和子

琴平社協が多くの方々の支えによって今日がある事を本企画により確認しました。心から感謝申し上げます。そして、これからも「福祉でまちづくり」に向け役職員一同努めて参ります。一層のご協力とご支援をお願いします。

事務局通信

シャントセナ（福祉ことひら合併号）

No.253（令和６年３月号）

「ガァリック娘」「どこでもガァリっ子」が第４回かがわ食品ロス削減大賞優秀賞受賞！

食品ロスに対する取り組みが評価され、見事受賞しました。買って地域貢献できるガァリック娘とどこでもガァリっ子をこれからもよろしくお願いします。

ガァリック娘
どこでもガァリっ子　⇒
注文フォーム

第３８回琴平町社会福祉大会

会長感謝証受賞者

＜福祉委員功労者＞

氏　名	自治会名
北山　武　様	北浦自治会
中井　久美　様	大西山第1自治会
森藤　津也子　様	南新町第三班自治会
白川　初子　様	阿波町中自治会
大西　喜美子　様	阿波町東自治会
藤田　峰子　様	汐見自治会

受賞された皆様おめでとうございました。

琴平町共同募金委員会
SNS　QR コード

こんぴら朝市
SNS　QR コード

ステーション行事予定表（3/10～4/6）

日	月	火	水	木	金	土
3/10	11	12	13	14	15	16
こんぴら朝市 9:00～12:00 （予定）		・生きがいディ （手芸）		生きがいディ （体操）		
17	18	19	20	21	22	23
		・生きがいディ （手芸）		評議員会 ・生きがいディ （高瀬天然温泉）		
24	25	26	27	28	29	30
こんぴら朝市 9:00～12:00 （予定）		・生きがいディ （手芸）	弁護士相談	生きがいディ （体操）		
31	4/1	2	3	4	5	6
		・生きがいディ （手芸）				

☆４月の弁護士相談（要予約）は　４月１７日（ 水）の予定です。
※予定変更する場合があります。詳細は HP をご確認ください。
※今回は紙面の都合上ちょっとこ場、楽集館の行事予定は掲載していません。ご利用希望の場合は社協まで連絡ください。

善意の寄付

皆様からの善意の寄付は琴平町の地域福祉に有効に活用させていただきます。厚く御礼申し上げます。

令和5年11月1日～令和6年1月31日

一般寄付として

○匿名　様より	10,000 円
○一般社団法人仲善教育会　様より	18,623 円
○匿名　様より	10,000 円
○匿名　様より	2,000 円
○吉田　武人　様より	300,000 円
○匿名　様より	50,000 円

香典返しとして

○匿名　様より	30,000 円

使用済み切手・テレカ・入れ歯 収集ボランティア

令和5年11月1日～令和6年1月31日

使用済み切手・テレカ・入れ歯収集ボランティアにご協力いただきまして誠にありがとうございます。

- 中野うどん学校　様
- 大森　ミヱ　様
- 宮武商店　様
- 榎井婦人会　様
- 川上板金　様
- 弘栄社　様
- ことひらテラス　様
- 福家さん家　様
- 匿名　3件

※使用済切手の注意事項

野菜・食料品・物品の寄付

令和5年11月1日～令和6年1月31日

皆様からたくさんのお野菜や食料品、物品の寄付をいただきました。生活に困っている人の支援や食事サービスに活用させていただきます。温かいご支援をありがとうございました。

- 野菜（大根、白菜、ブロッコリーなど）　15種類　10件
- 食料品(米、麺、スープ、おもち、甘栗など)　7種類　4件
- 物　品(オムツ、鍋、テーブルクロスなど)　5種類　3件

R5年度 共同募金（法人募金企業）ご報告

池田内科医院
岩崎医院
岩佐病院
大浦内科消化器科医院
大中仏壇店
おおにし病院
岡田工業
国際ホテル八千代
五条眼科医院
琴参閣
琴平工具
コトヒラ公益社
琴平塗装（株）
こんぴら石油（株）
（株）こんぴら堂
桜の抄
塩田歯科医院
中讃クリーン
天狗堂
ナガレ
にしきや本店
西山食肉店
服部商店
浜田眼科医院
藤田自動車
船岡建設
道久テレビサービス店
宮武商店
ミヨシ電化
森内科医院
山西桂華堂
やまもと耳鼻咽喉科

3,000 円以上の募金をいただいた法人企業様を掲載させていただいています。ありがとうございました。

五十音順／敬称略

募金活動以外にご協力いただいた店舗様

こんぴら温泉湯元八千代
さぬき名物骨付鶏　田中屋
中野うどん学校

五十音順／敬称略

地区担当職員紹介

令和５年 12 月より地区担当職員の
変更がありましたので、報告致します。

五條地区

森直人　山下晶子
川本浩司　渡邊京子

新人職員より一言

11月より社協の一員となりました。まだまだ分からないことばかりですが、色々と教えていただけると幸いです。精一杯頑張りますのでよろしくお願いします。（川西）

琴平地区

西山陽子　藤田美枝子
岩崎敦史　山崎智久

新人職員より一言

皆様に顔を覚えていただけるよう様々なことに取り組んでいければと思います。わからないことばかりでご迷惑をおかけすることが多くあるかと思いますが、一生懸命頑張りますのでよろしくお願いします。（柳井）

象郷地区

三嶋ひとみ　川西菜花　森末裕之
福永恵　古田麻美

榎井地区

松島直子　柳井里奈
上田法嗣　金児千春